



環境公共 通信

“地域づくりの新しいかたち” 環境公共



第24号 平成27年2月
発行／環境公共推進会議事務局
〒030-8570 青森市長島1-1-1
青森県農林水産部農村整備課内
TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

■最近の話題

『地域と企業がつながる水循環フォーラム』が開催されました

1 水循環システムの再生・保全

青森県では、平成16年度から国に先立ち、生産から流通・販売までを結びつけ、収益性のアップを図る「攻めの農林水産業」に取り組んでいます。

本県の農林水産業は、食品加工や流通など多くの産業と密接に結びつき、地域の経済・社会を支える重要な役割を果たしています。その基礎となる豊かな「水資源」を守り、安全・安心で優れた農林水産物の生産を可能とする環境を整えることが不可欠であると考え、「攻めの農林水産業」を推進するに当たり、一貫して「水循環システムの再生・保全」を施策の柱に据え、取り組んできました。

今年度からスタートした3期目の「攻めの農林水産業」においても、山から川、川から海、海からまた山へと循環する、水の流れを一体的に結んだ取組を進め、「きれいな水」の維持・確保に努めているほか、豊かな地域資源を未来に引き継ぐ「環境公共」などの取組を併せて推進し、生産とその基盤強化に力を入れています。

2 フォーラムの概要

1月27日、「ねぶたの家 ワ・ラッセ」において、これまでの取組により生み出された農林漁業者・地域住民・NPO・企業など多様な主体による活動をつなぐ新たなネットワークを構築していくために、これら関係者が一堂に会し、安全・安心な「水資源」を確保していくための連携・協働のあり方を共に考え、意識の共有を図ることを目的に、『平成26年度 地域と企業がつながる水循環フォーラム』が開催されました。



【三村知事挨拶】

冒頭、三村知事より、『農林水産業は常に環境と調和していかなくてはならない、環境を保全しながら、しかし、どうしても負荷を与えるので、調和・保全していく仕組みを提案しようということで、「環境公共」という新しくもあり当たり前のことでもある仕組みを提案した。今日のこの会をきっかけとして、皆様一人一人が「水」がもつ役割、環境に対して自分はどうのように負荷を与え

ているのか、環境と自分はどうのように生きていけばいいのか、ということなどをそれぞれの生活の中で考えるきっかけになれば。』と挨拶がありました。続いて、県の取組とモデル活動の紹介がなされ、その後、サッポロビール(株)仙台工場長 二渡氏より「地域に根ざしたCSR（社会貢献活動）」と題し、講演していただきました。

パネルディスカッションでは、弘前大学工藤明教授がコーディネーターとなり、「地域と企業がつながる森・里・海づくり」をテーマに活発な意見交換がなされました。



【パネルディスカッション】

■「環境公共」事例紹介

赤保内地区（三戸郡階上町）～ イワナが泳ぎ、ホタルが飛び交う清流の水路 赤保内 ～

1 地区の概要等

階上町は、県の最南東部に位置し、三陸復興国立公園の一面をなす小舟渡海岸があり、また、岩手県との県境には階上岳を主峰として山が連なるなど自然が豊かで、その中で営まれる農業と漁業が基幹産業となっています。

しかし、農村集落は農家の高齢化や耕作放棄地化が進んでおり、市街地エリアとの経済・生活環境格差が顕在化しているため、こうした問題を解消するため平成20年度に階上地区中山間地域総合整備事業に着手しました。

その中の1路線である赤保内排水路の整備に当たり、平成20年6月、農林漁業者、地域住民、関係団体等の協働により、事業の構想から将来的な維持管理に至るまでの役割分担等を定めることを目的に、赤保内地区環境公共推進協議会を設立しました。協議会では生態系調査とワークショップを行い、その結果等を基に平成21年1月、「イワナが泳ぎホタルが飛び交う清流の水路 赤保内」をキャッチコピーとした環境公共推進計画を作成しました。



【ワークショップ開催状況】

2 整備状況

生態系調査ではイワナ、ヤマメ、カワニナやニッポンヨコエビ等の生息が確認されており、協議会において、その結果を基に検討し、生物の棲みやすい水路、自然環境を楽しめる水路、水害のない安全・安心な水路、維持管理の容易な水路として整備することになりました。具体的



【自然型水路】

には、自然植生が繁茂できるように水路底に孔を開けたプレキャスト製品水路の利用、イワナ等の隠れ家となる置き石を配置したり、遡上できるように落差工を斜路式としました。



【斜路式落差工】

また、通常の素掘り水路に自然石ネットや植生ネットを張りつけた自然型水路を一部区間で整備しました。

3 取組状況

水路の整備後にモニタリング調査を実施したところ、整備前と同等の生物種・個体数が確認されました。しかし、景観を守り生物の生育環境に重要な役割を果たしていた水路沿いの樹木を工事の支障となるため伐採しており、そのため、協議会において町の花でもあるツツジを植樹することを決め、会員自ら植樹を行いました。また平成25年度には草刈りのほか維持管理作業軽減のための防草シートの施工も行いました。



【ツツジの植栽】

中山間地域総合整備事業は本年度で完了となりますが、今後の維持管理体制についても地元が主体的に関わっていくことを目指して話し合っているところです。

「環境公共」HP <http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kankyokoukyou.html>

